

# 泉

-IZUMI-

泉町の窯業は奈良時代の須恵器窯から始まり、「志野」「織部」の生産をした桃山時代からの元屋敷陶器窯跡など史跡も多くあります。毎年、5月のGWには定林寺地区で窯元巡りが行われ、多くの人でにぎわいます。現在は30軒以上の窯元があります。



今回は泉地区を紹介するぞ！

## 博 士の 研究所

やきもの生産



私たちのまち・土岐市は  
やきものまちです。『みの  
やき博士』みのやき志野ち  
ゃん』と一緒にやきもの  
知識を学んでいこう！

美濃焼振興室  
(☎98312)



伸光窯 金多田中製陶所

田中一 亮 さん  
久美子 さん

お話を  
聞かせて  
くれたのは

土岐市泉町定林寺 629-2  
☎3275  
<http://sinkougama.com>

### 泉の窯元

伸光窯さんに聞いてみました！

湯呑みの生産が盛んだった泉町。今はどんな様子なのかな？

今も時代に合った釉薬の研究に励んでいます。



昔の窯は山の斜面を利用して作られていたんだね！



Q 伸光窯さんでは今も湯呑みを作っているの？

現在は湯呑みの製造は少なく、他の形状のものに力を入れています。

伸光窯は明治28年創業で現在は5代目です。先代が釉薬の調合や焼成方法などを過去の物から変更し、5代目に受け継がれています。

Q なぜ泉町で湯呑みを多く作っていたの？

明治時代に窯元が零細化した結果、合理化が進み分業化しました。その際に泉町は湯呑みの専業となったそうです。伸光窯は明治の創業当時から作っていました。稻荷神社がある斜面に登り窯があり、その坂道を「煎茶湯呑みの別称」坂と呼んでいます。周辺にある数件の窯元が共同で湯呑みを作っていました。

窯跡が多い泉町は美濃焼の輝かしい幕開けの地じゃ。豊かな陶土・適切な斜面・燃料の赤松が昔からそろっておったからのう。



## 市長の部屋から

1月8日(火)

セラトピア土岐と駄知体育館で「美濃焼新春見本市」が行われました。市内7つの陶磁器工業協同組合に加盟するメーカー145社が、新作を中心に約9500点を展示し、会場には多くのバイヤーが詰め掛けました。



最近の美濃焼はデザインや使い手を考えた形など、さまざまな面で工夫が凝らされていると感じます。また、少しこだわった食器を使えば料理も引き立ち、食事がより一層楽しくなると思います。

さて、本市では昨年「美濃焼のまち条例」を制定しました。これは市民と業界、行政が一体となって積極的に美濃焼の使用や普及に取り組み、地域経済や社会を盛り上げていこうという条例です。

本市は、まさに美濃焼の産地として発展してきました。今後も、歴史と伝統のある地場産業が大いに盛り上がることを願い、力を尽くしてまいります。

土岐市長 加藤靖也

